小板　アラメ大小、杉木地花塗、利休形、　松木地、大小とも啐啄齋好、溜ヌリウルシ、

丸板　大板を丸く仕たる物なり、尤面あり、眞塗檜木地、紹鷗好、琉球風呂、臺子風呂、唐金風呂によし、面なしケヤキ木地、カキ合せは、鐵鬼面風爐に限るなり、

瓦板　織部燒、大德寺寸松庵園中に、佐久間氏織部燒の瓦にて花壇を造る、如心齋此瓦板を申請、鐵の丸釜風呂に敷く、與二郎作の大阿彌陀堂に取合す、風呂の名殘に用ゆるが始りなり、土風呂に用ひてもくるしからず、樂燒は如心好、長入始て製す、前一方金入唐草、鐵風呂にはよろしからず、土風呂唐金に用ゆ、

〔長闇堂記〕古風の眞の釜はすきすへなり、小板も大小ありて、大風爐には小板を用ひ、小風爐には大板をせしなり、其後利休より板一圓に定れるなり、

〔南方錄 三〕大板

壹尺三寸五分、幅壹尺、又は一尺一寸にて、厚サ五分、裏にはしばみ二所入也、また一尺二寸五分も、一尺三寸も在、田舍間疊に置時は、一尺三寸五分のにては、へり際一はいに突付て置べし、一尺二寸五分のは、各坐へりを壹寸置てもよし、大疊に置時は、必一寸置てよし、一尺三寸五分のにても同意也、大板には必小風爐を用、その大疊の時の事也、

〔茶道要錄 上 主法〕風爐之事

一大板小板之事、大板ハ小釜ノ時用、小板ハ大釜ニ用ユ、小ハ竪八寸五分、横八寸四分、厚サ四分半也、此時ハ勝手ノ方疊ノ緣ヨリ九ツ目除ル、後同寸也、大ハ竪九寸三分、横九寸二分、厚ハ同前、勝手ノ方七目除テ置、後モ亦同ジ、中柱無之時ハ、板ノ大小ニ不拘、九目置テ吉、杉板ノ批目ヲ上トス、起目ニモスル也、各漆色花塗タルベシ、板目ノアラキ方ヲ前トス、是傳也、

〔貞要集 三〕大板小板之事